

2004 年（平成 16 年）感染症発生動向調査結果
- 患者情報 -

2004年(平成16年)感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
1				1	2	3	4
2	5	6	7	8	9	10	11
3	12	13	14	15	16	17	18
4	19	20	21	22	23	24	25
5	26	27	28	29	30	31	

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
27				1	2	3	4
28	5	6	7	8	9	10	11
29	12	13	14	15	16	17	18
30	19	20	21	22	23	24	25
31	26	27	28	29	30	31	

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5							1
6	2	3	4	5	6	7	8
7	9	10	11	12	13	14	15
8	16	17	18	19	20	21	22
9	23	24	25	26	27	28	29

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31							1
32	2	3	4	5	6	7	8
33	9	10	11	12	13	14	15
34	16	17	18	19	20	21	22
35	23	24	25	26	27	28	29
36	30	31					

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
10	1	2	3	4	5	6	7
11	8	9	10	11	12	13	14
12	15	16	17	18	19	20	21
13	22	23	24	25	26	27	28
14	29	30	31				

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
36			1	2	3	4	5
37	6	7	8	9	10	11	12
38	13	14	15	16	17	18	19
39	20	21	22	23	24	25	26
40	27	28	29	30			

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
14				1	2	3	4
15	5	6	7	8	9	10	11
16	12	13	14	15	16	17	18
17	19	20	21	22	23	24	25
18	26	27	28	29	30		

10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
40					1	2	3
41	4	5	6	7	8	9	10
42	11	12	13	14	15	16	17
43	18	19	20	21	22	23	24
44	25	26	27	28	29	30	31

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18						1	2
19	3	4	5	6	7	8	9
20	10	11	12	13	14	15	16
21	17	18	19	20	21	22	23
22	24	25	26	27	28	29	30
23	31						

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
45	1	2	3	4	5	6	7
46	8	9	10	11	12	13	14
47	15	16	17	18	19	20	21
48	22	23	24	25	26	27	28
49	29	30					

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
23		1	2	3	4	5	6
24	7	8	9	10	11	12	13
25	14	15	16	17	18	19	20
26	21	22	23	24	25	26	27
27	28	29	30				

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
49			1	2	3	4	5
50	6	7	8	9	10	11	12
51	13	14	15	16	17	18	19
52	20	21	22	23	24	25	26
53	27	28	29	30	31		

「愛媛県感染症情報」発行日

2004年(平成16年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 一～五類感染症

(1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

(2) 二類感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は3人の届出があり、20歳代女性、40歳代男性、50歳代男性各1人であった。推定感染地は海外2人(インドネシア、中国)、国内1人であった。分離された菌型は3人すべてフレキシネル型であった。

(3) 三類感染症

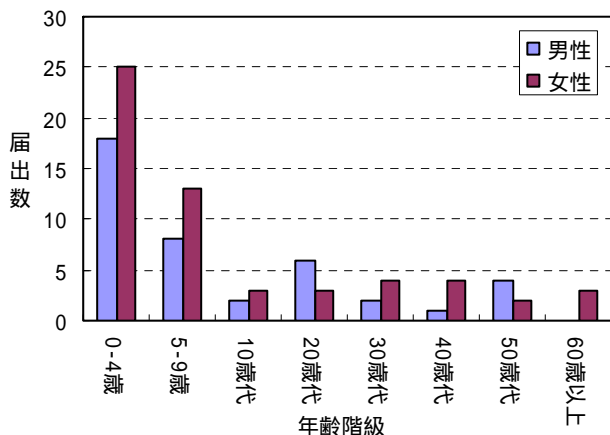
腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は33事例98人の届出があり、1999年以降では最も多い届出数であった。性別は男性41人、女性57人で女性がやや多かった。年齢別では0～4歳が43人と最も多く、5～9歳が21人、10歳代5人、20歳代9人、30歳代6人、40歳代5人、50歳代6人、60歳代1人、70歳以上2人であり、10歳未満が全体の65.3%を占めた。

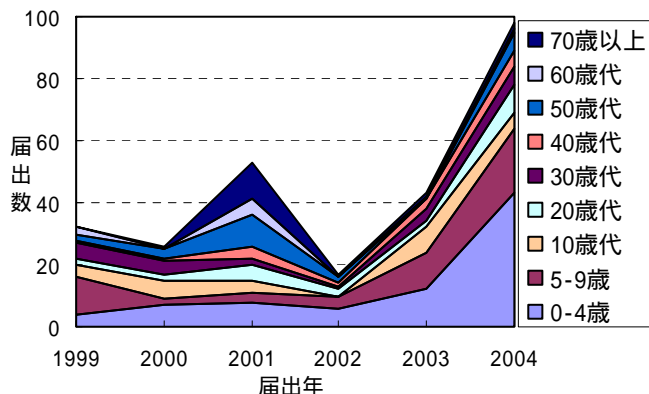
血清型(Vero毒素型)はO26(VT1)が59人、O157が37人(VT1・VT2が28人、VT1が1人、VT2が8人)、O63(VT2)が1人、O111(VT1)が1人であった。2004年はO26(VT1)による届出が急増し、全体の60%を占めた。

月別に届出数の推移を見ると、5月末に松山市の幼稚園(事例3)、8月中旬に西予市の保育所(事例13)で、いずれもO26による集団発生があったため、6月及び8月に乳幼児を中心としたO26の届出数が増加した。その後10月末～11月にかけて、今治地区及び中予地区でO157(VT1・VT2)による散発あるいは家族内感染事例(事例22～32)が多発したため、11月にO157の届出数が増加した。

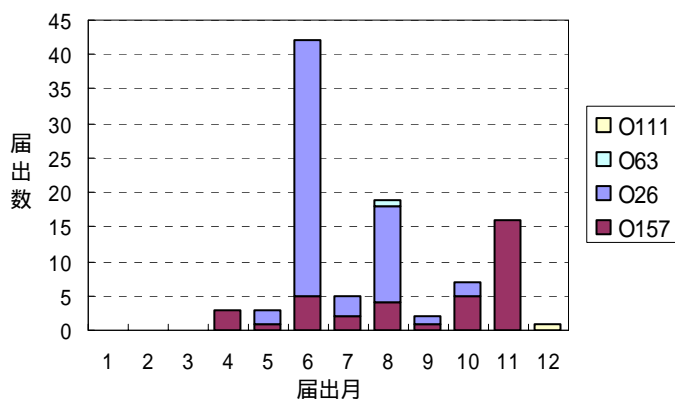
年齢階級・性別患者数(2004年)



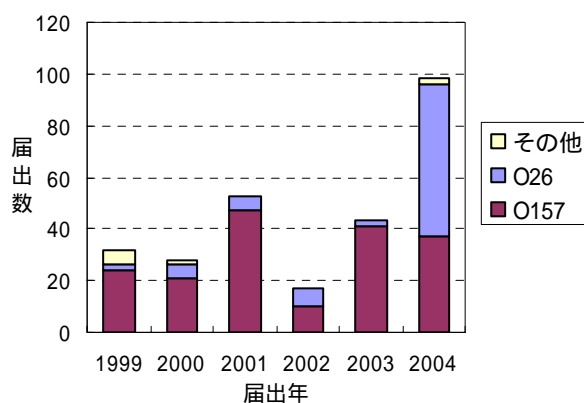
年齢階級別患者数(年推移)



月別・血清型別患者数(2004年)



血清型別患者数(年推移)



腸管出血性大腸菌感染症 事例別一覧

事例番号	届出月日	発生地 (患者所在地)	血清型	ベロ毒素	患者・感染者数
1	4月5日	松山市	O157	VT1・VT2	1
2	4月16日～	今治市	O157	VT1・VT2	2
3	5月27日～	松山市	O26	VT1	38
4	5月31日	新居浜市	O157	VT1・VT2	1
5	6月9日	温泉郡	O26	VT1	1
6	6月12日	松山市	O157	VT1・VT2	1
7	6月21日	越智郡	O157	VT2	1
8	6月24日～	松山市	O157	VT1・VT2	3
9	7月1日	西予市	O157	VT1・VT2	1
10	7月12日～	松山市	O26	VT1	3
11	7月20日	越智郡	O157	VT2	1
12	8月11日	松山市	O157	VT1・VT2	1
13	8月11日～	西予市	O26	VT1	15
14	8月13日	高松市	O157	VT2	1
15	8月18日	伊予市	O63	VT2	1
16	8月23日	新居浜市	O157	VT1	1
17	8月27日	越智郡	O157	VT1・VT2	1
18	9月10日	松山市	O157	VT2	1
19	10月2日～	松山市	O26	VT1	2
20	10月9日	喜多郡	O157	VT2	1
21	10月16日～	松山市	O157	VT2	3
22	10月22日	今治市	O157	VT1・VT2	1
23	11月11日～	越智郡	O157	VT1・VT2	2
24	11月13日～	松山市	O157	VT1・VT2	2
25	11月16日～	東温市	O157	VT1・VT2	2
26	11月16日	伊予市	O157	VT1・VT2	1
27	11月16日	松山市	O157	VT1・VT2	1
28	11月16日	今治市	O157	VT1・VT2	1
29	11月18日	松山市	O157	VT1・VT2	1
30	11月22日	東温市	O157	VT1・VT2	1
31	11月22日	松山市	O157	VT1・VT2	4
32	11月30日	伊予市	O157	VT1・VT2	1
33	12月28日	今治市	O111	VT1	1
計					98

(4) 四類感染症

E 型肝炎

E 型肝炎は 2 人の届出があった。1 人はインドでの感染が推定される 20 歳代男性で、A 型肝炎との重複感染であった。1 人は国内での感染が推定される 50 歳代女性であった。国内感染例の多くはイノシシやシカ等の野生動物の生肉が原因と考えられており、本症例においてもイノシシ肉の摂食歴があった。

A 型肝炎

A 型肝炎は 2 人の届出があった。1 人は上記のとおりインドでの感染が推定される 20 歳代男性で、E 型肝炎との重複感染であった。また、国内での感染が推定される 30 歳代女性の届出が 9 月に 1 人あったが、感染経路は不明であった。2003 年は 18 人の届出があったが、2004 年は 2001 年と並んで最も少ない届出数であった。

オウム病

1999 年以降、県内ではじめて 1 人の届出があった。患者は 70 歳代女性で、メジロを飼育中の感染が推定された。

日本紅斑熱

日本紅斑熱は 5～11 月の間に宇和島中央保健所管内から 6 人の届出があった。性別は男性 1 人、女性 5 人であり、年齢は 30 歳代 1 人、50 歳代 3 人、60 歳代 1 人、70 歳代 1 人であった。いずれも国内での感染であり、すべてダニ（マダニ）による刺咬歴が確認された。媒介動物との接触場所は、みかん山 4 人、公園 1 人、不明 1 人であった。日本紅斑熱は 2003 年に県内で初めて 2 人の患者が確認されたが、2004 年は 6 人に急増しており、今後の動向に注意が必要である。

マラリア

20 歳代女性 1 人の届出があった。推定感染地域はインドネシアであり、三日熱マラリアが検出された。

レプトスピラ症

2003 年 11 月の法改正で対象疾患となった後、県内ではじめて 1 人の届出があった。患者は 60 歳代男性で、水害の後片付け中の感染が推定された。

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は3人の届出があった。年齢及び性別は20歳代女性1人、30歳代男性1人、30歳代女性1人であった。推定される感染地域は、シンガポール1人、日本国内1人、不明1人であり、いずれも推定感染経路は不明であった。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）として8人の届出があり、B型6人、C型1人、その他（EBウイルス）1人であった。すべて国内での感染が推定された。

B型肝炎は20歳代男性2人、20歳代女性1人、30歳代女性1人、40歳代男性1人、50歳代男性1人であり、推定される感染経路は異性間性的接触2人、不明4人であった。

C型肝炎は40歳代女性1人で、推定される感染経路は不明であった。

EBウイルスによる急性肝炎は20歳代女性で、推定される感染経路は異性間性的接触であった。

急性脳炎（ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く）

急性脳炎は2人の届出があり、1歳女児1人、3歳男児1人であった。いずれも病原体としてムンプスウイルスが検出された。

クロイツフェルト・ヤコブ病

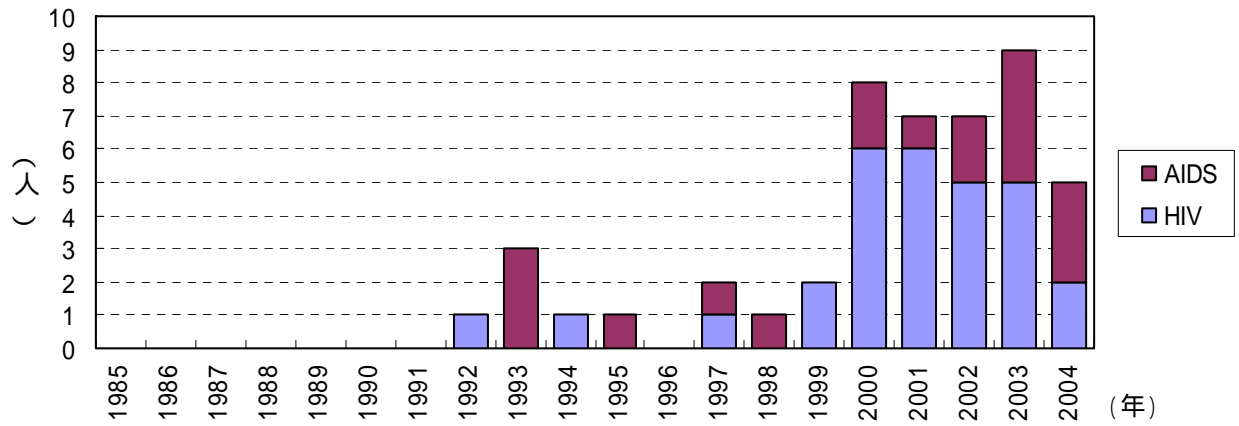
クロイツフェルト・ヤコブ病は80歳代女性2人の届出があった。いずれも孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病で、ほぼ確実例1人、疑い例1人であった。

後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は5人の届出があり、そのうち無症候性キャリア（HIV感染者）2人、AIDS3人であった。年代別の届出数（うちAIDS数）は20歳代2(2)人、30歳代2人、40歳代1(1)人であり、性別はすべて男性であった。推定感染地域はいずれも日本国内であり、推定される感染経路はすべて性的接触（同性間3人、異性間1人、異性・同性間1人）であった。

県内のHIV感染者及びAIDS患者数の年次推移をみると、1992年にHIV感染者が届出されてから1999年までは毎年1～2人程度の届出数で推移していたが、2000年以降は年間届出数5人以上と多い状態が続いている。1999年4月1日以降感染症法に基づいて届出された38例の感染経路別内訳は、国内感染例31例のうち22例（71%）が男性の同性間性的接触（同性・異性間を含む）であり、全国的な傾向と同様、県内においても男性の同性間性的接触が主要な感染経路と考えられる。

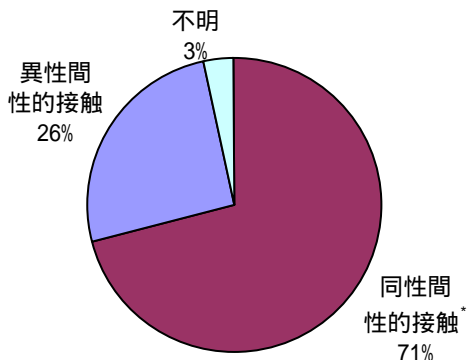
愛媛県における HIV 感染者及び AIDS 患者の年次推移



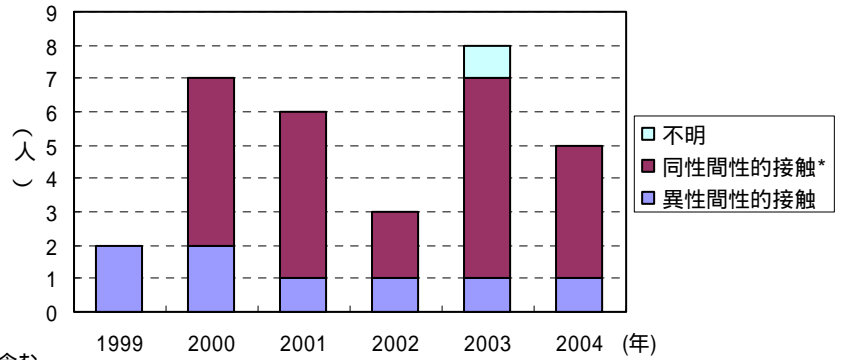
国内感染例の感染経路別内訳

(1999年4月1日以降届出者)

(年次推移)



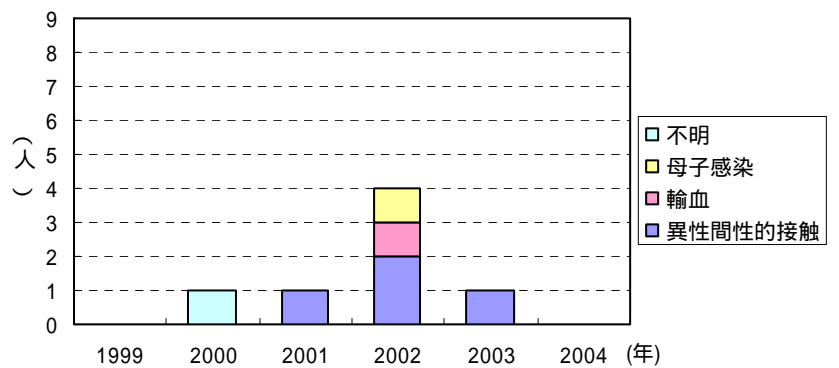
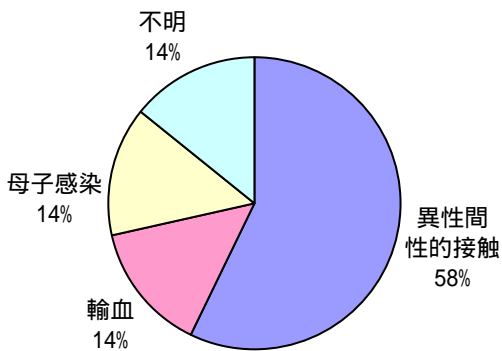
*両性間性的接触を含む



国外感染例・不明例の感染経路別内訳

(1999年4月1日以降届出者)

(年次推移)

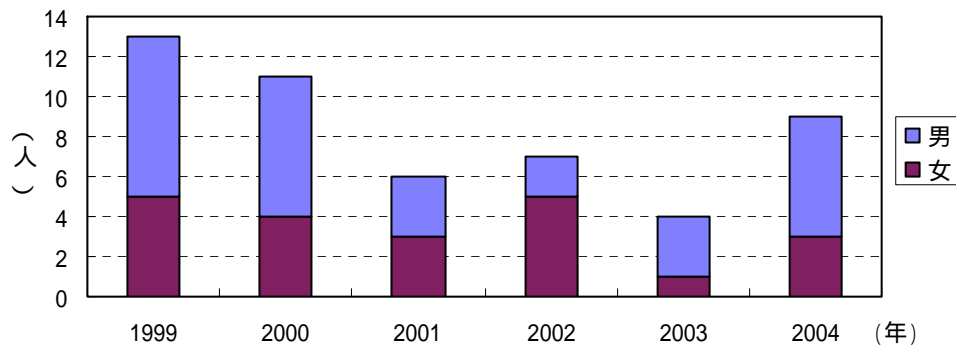


梅毒

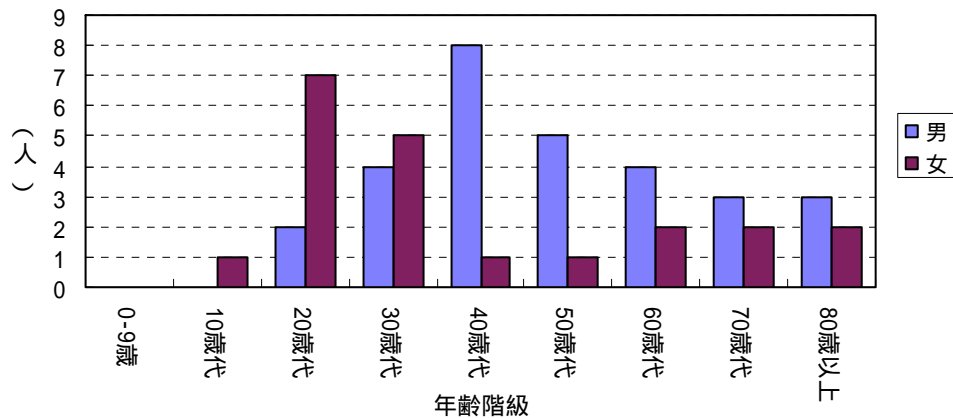
1999年から2003年までは梅毒の届出数は概ね減少傾向にあったが、2004年の届出数は9人と増加した。内訳は晩期顕症梅毒2人、早期顕症梅毒3人(期2人、期1人)、無症候梅毒4人であり、性別及び年齢は、20歳代3人(男性1人、女性2人)、40歳代4人(男性3人、女性1人)、50歳代2人(男性2人)であった。推定される感染地域は日本国内6人、海外1人、不明2人であり、推定される感染経路は、異性間性的接触が5人、不明が4人であった。

1999年4月1日以降感染症法に基づいて届出された50人(男性29人、女性21人)の年齢分布を男女別に比較すると、男性は40歳代を中心として20歳以上の幅広い年齢層に分布しているのに対し、女性では20歳~30歳代の比較的若い世代が57%(12/21)を占めているのが特徴である。

梅毒患者の年次推移



梅毒患者の年齢階級別届出数 (1999年4月1日以降届出者)



破傷風

50歳代男性1人、60歳代男性1人の合計2人の届出があった。両事例とも日本国内での感染であり、推定感染経路は外傷による創部からの感染が1例、不明が1例であった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 種類	年	愛媛県						全国							
		2004	2003	2002	2001	2000	1999	2004	2003	2002	2001	2000	1999		
一類	エボラ出血熱														
	クリミア・コンゴ出血熱														
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*			-	-	-	-			-	-	-	-		
	痘そう			-	-	-	-			-	-	-	-		
	ペスト														
	マールブルグ病														
二類	ラッサ熱														
	急性灰白髄炎												1		
	コレラ							82	25	51	50	58	39		
	細菌性赤痢	3	3	6	7	50	2	576	473	699	844	843	620		
	ジフテリア												1	2	
	腸チフス				2			66	62	63	65	86	72		
三類	パラチフス							86	44	35	22	20	30		
	腸管出血性大腸菌感染症	98	43	17	53	28	32	3,640	2,999	3,183	4,435	3,642	3,117		
	四類	E型肝炎	2	1					35	3	-	-	-	-	
		ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)				-	-	-				-	-	-	
		A型肝炎	2	18	7	2	12	3	136	13	-	-	-	-	
		エキノコックス症							25	20	10	15	22	7	
黄熱															
オウム病		1						39	44	54	35	18	23		
回歸熱															
Q熱							5	7	9	47	42	24	12		
狂犬病															
高病原性鳥インフルエンザ*				-	-	-	-			-	-	-	-		
コクシジオイデス症								6	1	3	2	1			
サル痘				-	-	-	-			-	-	-	-		
腎症候性出血熱															
炭疽															
つつが虫病						1		296	402	338	491	791	556		
デング熱								45	32	52	50	18	9		
ニパウイルス感染症*				-	-	-	-			-	-	-	-		
日本紅斑熱		6	2					67	52	36	40	38	39		
日本脳炎					1			5	1	8	5	7	5		
ハンタウイルス肺症候群															
Bウイルス病															
ブルセラ症										1					
発疹チフス															
ボツリヌス症														1	
マラリア	1	2	3				73	78	83	109	154	112			
野兔病*			-	-	-	-			-	-	-	-			
ライム病							4	5	15	15	12	14			
リッサウイルス感染症*			-	-	-	-			-	-	-	-			
レジオネラ症		1	1				162	146	167	86	154	56			
レプトスピラ症*	1		-	-	-	-	18	1	-	-	-	-			
五類	アメーバ赤痢	3	3		3	4	1	580	520	465	429	378	276		
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	8	6	2	3	15	18	299	650	948	929	991	1,519		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*	2		-	-	-	-	157	12	-	-	-	-		
	クリプトスポリジウム症							91	8	109	11	3	4		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	2		3		1	167	118	147	133	108	92		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			3			1	53	53	92	47	47	22		
	後天性免疫不全症候群	5	9	7	7	8	2	1,119	970	916	947	794	588		
	ジアルジア症		1	1	1	1		85	103	113	137	98	42		
	髄膜炎菌性髄膜炎							22	18	9	8	15	10		
	先天性風しん症候群							10	1	1	1	1	1		
	梅毒	9	4	7	6	11	13	516	509	575	585	759	751		
	破傷風	2	2	4	5	1	1	100	73	106	80	91	66		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*			-	-	-	-			-	-	-	-		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							49	59	44	40	36	23		
計	145	97	58	93	131	79	8,616	7,504	8,370	9,653	9,211	8,107			

注1: 1999年の報告数については4月から12月までの数値である。

注2: (*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

注3: 全国の2004年の報告数については概数である。

注4: 全国のウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)の報告数については、2003年11月5日以前はE型肝炎及びA型肝炎を含む。

表 2-1-2 2004年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成16年1月1日～平成16年12月31日

感染症類型	疾病名	月															
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
一類	エボラ出血熱																
	クリミア・コンゴ出血熱																
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																
	痘そう																
	ペスト																
	マールブルグ病																
	ラッサ熱																
二類	急性灰白髄炎																
	コレラ																
	細菌性赤痢	3					1			2							
	ジフテリア																
	腸チフス																
	パラチフス																
三類	腸管出血性大腸菌感染症	98				3	3	42	5	19	2	7	16	1			
四類	E型肝炎	2	1							1							
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																
	A型肝炎	2	1								1						
	エキノコックス症																
	黄熱																
	オウム病	1											1				
	回帰熱																
	Q熱																
	狂犬病																
	高病原性鳥インフルエンザ																
	コクシジオイデス症																
	サル痘																
	腎症候性出血熱																
	炭疽																
	つつが虫病																
	デング熱																
	ニバウイルス感染症																
	日本紅斑熱	6					1	1		1	1	1	1	1			
	日本脳炎																
	ハンタウイルス肺症候群																
	Bウイルス病																
	ブルセラ症																
	発疹チフス																
	ポツリヌス症																
	マラリア	1												1			
	野兔病																
	ライム病																
リッサウイルス感染症																	
レジオネラ症																	
レプトスピラ症	1												1				
五類	アムール赤痢	3			1	1								1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	8			1		1	2	1				1	2			
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	2						1	1								
	クリプトスポリジウム症																
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2												2			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																
	後天性免疫不全症候群	5		1					1	1	1		1				
	ジアルジア症																
	髄膜炎菌性髄膜炎																
	先天性風疹症候群																
	梅毒	9		2		2		2				1	1	1			
	破傷風	2							1			1					
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																
	計	145		5	2	6	7	50	8	23	6	17	20	1			

表2-1-3 2004年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成16年1月1日～平成16年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所名									
		計	四国中央	新居浜	西条中央	今治中央	松山市	松山中央	大洲	八幡浜中央	宇和島中央
一類	エボラ出血熱										
	クリミア・コンゴ出血熱										
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)										
	痘そう										
	ペスト										
	マールブルグ病										
二類	ラッサ熱										
	急性灰白髄炎										
	コレラ										
	細菌性赤痢	3			1		1	1			
	ジフテリア										
三類	腸チフス										
	パラチフス										
三類	腸管出血性大腸菌感染症	98		2		10	64	5	2	15	
四類	E型肝炎	2				1					1
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)										
	A型肝炎	2				2					
	エキノкокクス症										
	黄熱										
	オウム病	1								1	
	回歸熱										
	Q熱										
	狂犬病										
	高病原性鳥インフルエンザ										
	コクシジオイデス症										
	サル痘										
	腎症候性出血熱										
	炭疽										
	つつが虫病										
	デング熱										
	ニバウイルス感染症										
	日本紅斑熱	6									6
	日本脳炎										
	ハンタウイルス肺症候群										
	Bウイルス病										
	ブルセラ症										
	発疹チフス										
ポツリヌス症											
マラリア	1							1			
野兔病											
ライム病											
リッサウイルス感染症											
レジオネラ症											
レプトスピラ症	1							1			
五類	アメーバ赤痢	3				1	1	1			
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	8			3		2	1		2	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	2					2				
	クリプトスポリジウム症										
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2					1	1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										
	後天性免疫不全症候群	5			1		3	1			
	ジアルジア症										
	髄膜炎菌性髄膜炎										
	先天性風疹症候群										
	梅毒	9	2				5		1	1	
	破傷風	2				1	1				
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症										
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症										
計	145	2	2	5	15	80	9	6	17	9	

表 2-1-4 2004年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成16年1月1日～平成16年12月31日

感染症 類 型	年齢 疾病名	計	0	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	
			歳	4	9	14	19	24	29	34	39	44	49	54	59	64	69	歳 以上	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																		
	痘そう																		
	ベスト																		
	マールブルグ病																		
二類	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢	3							1			1		1					
	ジフテリア																		
	腸チフス																		
三類	バラチフス																		
	腸管出血性大腸菌感染症	98	4	39	21	4	1	6	3	2	4	1	4	3	3		1	2	
四類	E型肝炎	2							1					1					
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎	2							1		1								
	エキノкокクス症																		
	黄熱																		
	オウム病	1																1	
	回帰熱																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	高病原性鳥インフルエンザ																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	腎症候性出血熱																		
	炭疽																		
	つつが虫病																		
	デング熱																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱	6										1			1	2		1	1
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
	Bウイルス病																		
	ブルセラ症																		
	発疹チフス																		
	ポツリヌス症																		
マラリア	1							1											
野兔病																			
ライム病																			
リッサウイルス感染症																			
レジオネラ症																			
レプトスピラ症	1															1			
五類	アメーバ赤痢	3						1		1	1								
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	8						4		1		1	1		1				
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	2	2																
	クリプトスポリジウム症																		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2																2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		
	後天性免疫不全症候群	5							2	1	1	1							
	ジアルジア症																		
	髄膜炎菌性髄膜炎																		
	先天性風疹症候群																		
	梅毒	9						1	2			2	2	2					
	破傷風	2														1		1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		
計	145	4	41	21	4	1	13	10	5	8	6	7	8	7	1	3	6		

